

二人のメシア

ルカ2:1~14 / 李正兩師

今日はクリスマスイブです。そして明日は、イエス様がお生まれになったことを記念するクリスマスです。このクリスマスが与えてくれる喜びは、誰にでも同じだと思います。信徒である私たちにも、信徒ではない人々にも、クリスマスは喜びを与えてくれます。しかし、クリスマスを迎える姿勢と意味は、お互いに違うと思います。お互いが目指しているところは違うからです。信徒である私たちにとって、クリスマスは祝日のような日だけではありません。私たちのメシアがお生まれしたことを記念する日であり、再び来られるというメシアの約束を覚える日です。それで私たちは、クリスマスの前日、主の約束を思い出して、こうして教会に集まって礼拝をささげているのです。来られた主を記念して、来られる主を待ち望みながらクリスマスを迎えているのです。これが私たちのクリスマスであり、私たちの喜びなのです。このクリスマスの意味と喜びが、今日、この場に集まった皆様と共にありますように祈ります。

今日、私たちに与えられた福音書は、イエス様の誕生の背景と状況についての言葉です。イエス様はベツレヘムという場所でお生まれになりましたが、ここには、2つの理由があります。一つは、当時の皇帝の勅令によることであり、もう一つは、神様の預言によることです。イエス様の誕生に際して、皇帝は、全領土の住民に登録をせよと命じます。当時の皇帝は、カエサル・オクタウィアヌス (Caesar Octavianus) という人でしたが、彼は、ローマ帝国の初代皇帝でした。分かれたローマを戦争と政治によって一つにし、自ら皇帝になった人です。強力な力を持っていたので、ローマの元老院も何の牽制もできませんでした。事実上、独裁と違うところがなかったと思います。それで彼は、アウグストゥス、尊厳ある者 (a man of dignity) と呼ばれ、今日の福音書でも、彼の名前をアウグストゥスと記録しています。

このような彼は、自分が治めている全領土に住民登録を命じます。この住民登録には、いくつかの意味があったと思います。一つになった帝国の状況や人口の調査、民たちの統制や属国の税金把握など様々な理由があったでしょう。しかし私たちは、歴史ではなく聖書を通して当時の状況を見ているので、聖書が語っている住民登録の意味について調べなければならないと思います。旧約聖書にも、この住民登録についての言葉が書かれています。正確に言えば、住民登録ではなく人口調査ですが、住民登録の目的が人口調査にあるので、私は同じだと思います。旧約聖書、歴代誌下21章1節には、こう書かれています。「サタンがイスラエルに対して立ち、イスラエルの人口を数えるようにダビデを誘った。」

人口調査というものは、悪いわけではありません。ところが、この言葉では、サタンがダビデを誘ってイスラエルの人口を数えるようにしたと書いてあります。ここにダビデは、自分の部下たちにイスラエルの人口を数えさせましたが、これは、神様が願われたものではありませんでした。なぜなら、この人口調査を通して、ダビデは神様ではなく自分の偉大さを示そうとしたからです。聖書でのイスラエルは、神様が導いてきた国でした。神様が預言者を通して国と王を立てられ、律法が社会の基準となり、秩序を守らせました。戦争の勝敗や民の豊かさも、神様が与えてくださるものです。なので、神様がイスラエルの主人になり、本当の王にならなければなりません。これをダビデもよく知っていました。しかしダビデは、自分の老年にイスラエルの人口を数える過ち、罪を犯してしまいました。帝国のように大きくなったイスラエルの主人になりたかったのだと思います。まるで禁断の実を食べたアダムとエバのように。そしてこのことは、ダビデの過ち、罪として残ります。歴代誌下21章7~8節の言葉です。「神はこのことを悪と見なされ、イスラエルを撃たれた。ダビデは神に言った。『わたしはこのようなことを行って重い罪を犯しました。』」

このように、ダビデの人口調査は、自分の偉大さを示すためのものであり、神様の御座をむさぼることでした。そして、今日の福音書でも、このことが再び起こります。ローマ帝国の初代皇帝が全領土の人口調査、住民登録を命じたのです。聖書の視点から見ると、これも皇帝自身の偉大さを示すためのことです。このアウグストゥスの命令によって、ガリラヤに住んでいたヨセフとマリアも住民登録をするために、自分の町に旅立ちます。ヨセフは、ダビデの家に属していたので、ダビデの町、ベツレヘムに行きました。そして、そこでイエス様がお生まれになりました。面白いのは、皇帝の勅令によってベツレヘムに行くことになったのですが、これを通して預言が成し遂げられたというのです。旧約時代の預言者、ミカの預言です。ミカ書5章1節の言葉です。「エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのためにイスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。」

皇帝が住民登録の命令を下すと、預言が成し遂げられました。皇帝が自分の勢力と偉大さを示すと、救いのためのメシアがお生まれになったのです。ここで私たちは、神様の摂理が何なのか、この意味が何なのか分かると思います。ほとんどの人が目指しているのは、この世の価値です。この世界が最高だと言っているお金、名誉、権力に、大勢の人々は価値を置いて生きていきます。そして、当時の皇帝は、このすべてを持っていました。だから、皇帝の一言でみんなが登録をしに、自分の町に行ったのではないのでしょうか。この世が求める頂点にいる人。その人は帝国の皇帝でした。しかし神様は、このような皇帝の前に、メシアを送られます。そして神様のメシアは、まったく違う歩みを示します。お金、名誉、権力の正反対の道に歩んでいかれます。自分を低くして、謙遜で、犠牲にするメシアになってください。イエス様の誕生を目撃した人々のことを御覧ください。彼らがどんな人々だったかを考えてみてください。マタイによる福音書では、異邦人の占星術者たちが、今日の福音書であるルカによる福音書では、羊飼いたちがイエス様の誕生を目撃しました。この2つのグループの人々は、イスラエルの文化の中でも最も低い人々です。しかし神様は、彼らにメシアの誕生を知らせてくださり、神様の救いを示してくださいました。今日の福音書10-11節の言葉です。「天使は言った。『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』」

神様は、この世の価値によって私たちを導いたり、救ったりはなさいません。むしろ、この世の価値と反対することによって、私たちを導かれ、救われるのです。強い者が仰がれ、持てる者が認められるこの社会で、救い主の誕生は、みんなに新しい道を示してくださるのです。これが皇帝の勅令と一緒にメシアがお生まれになった理由であり、私たちがその誕生をこうして記念する理由なのです。強い者にのみ、または一部の人にもみ与えられる平和ではなく、皆に与えられる平和。そして天の栄光。私たちのメシアは、この平和と栄光のためにこの世に来られ、神様は天使を通してその出来事をこの世にお告げになります。14節の言葉です。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」この天使の告げのように、イエス様に従っている人々はみんな平和と栄光を受けるようになるのです。メシアによる栄光と平和が今日この場に集まっている皆様と共にありますように。今も、戦争と独裁によって被害を受けている人々と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン